

日本児童教育専門学校 総合子ども学科 教育課程編成委員会 開催記録

1.日時

第1回 平成29年2月24日（金）午後18時から午後19時00分まで

第2回 平成29年3月24日（金）午後18時から午後19時00分まで

2.委員等氏名及び略歴

片岡輝	東京家政大学名誉教授・社会福祉法人緑伸会理事長
新木真理子	NPO法人ヒューマンサポート ひまわり ひまわり保育園 施設長
須江宏行	公益財団法人生長の家社会事業団生長の家神の国寮 自立支援コーディネーター
今泉良一	学校法人双葉学園 認定こども園ふたばランド 教諭
石川智幸	社会福祉法人どろんこ会 グループ人事採用部
<陪席>	
阿久津 撰	日本児童教育専門学校 副校長・教務部長・児童教育科 学科長
中西和子	日本児童教育専門学校 総合こども学科 学科長
菊池一英	日本児童教育専門学校 キャリアデザインセンター センター長
安部高太郎	日本児童教育専門学校 総合こども学科 専任教員
高井均	日本児童教育専門学校 事務次長
谷村明門	日本児童教育専門学校 事務局

◆議事要約◆

*本校は3学科とも保育系学科のため、当日は学校関係者評価委員会と教育課程編成委員会を同時に進行した。内容は教育課程編成委員会に該当部分の抜粋とする。

<初めに副校長阿久津より、今回のテーマである『現場実践基礎力を有した保育士養成のための「保育現場での活動」のガイドライン作成』事業についての報告があった。>

「保育現場での活動」のガイドライン作成』事業についての報告

- ・阿久津：国の重要課題である待機児童の解消に向け、現場で働く保育士の確保は急務である。その一方で有資格者でも就労につかない、もしくは離職するなどの現状において、労働力の確保に保育現場は切迫した状態にある。

保育士養成校施設に通う学生や保育現場の多様化に伴い、現行の保育士養成施設でのカリキュラムには改善すべき点がある。就労への意欲は「保育の現場」がとても活気があり、可能性に満ちていることを学生に実感してもらうことにより育まれるという視点の重要性に着目する。

子どもに触れ合う経験や生活体験の少ない学生が多い中、入学後の早い時期から、効果

が上がるボリュームを持った「保育現場での活動」を授業内カリキュラムに体系的に取り入れていく。

「保育現場での活動」においては資格取得のための「保育実習」とは評価の視点を変え、現場実践に徹底的に依拠した独自の「スキル・特性に関する個票」「到達目標レベル表」を開発する。

それを基に養成校の教員と現場担当者が連携し共に長期的視点に立った「育み」のプログラムを策定する。加えて「保育現場での活動」を行う学生に対して給与を支給するシステムも検討する。例えば、初任者レベルの働きができる学生に給与を発生させる等は考えられるか検討する。

- ・以上の取り組みを3か年計画で進め、今年1年目は実態調査等を行った。
- ・実態調査の結果報告
 - 「保育実習」と「保育現場での活動」の違い
 - 「保育実習」の評価、キャリアパスに関して
- ・今年度の事業成果について
 - 現場実践力の定義(1)～(3)
 - 「到達目標レベル表」の作成
 - 「保育現場での活動」の規定
 - 保育実践と教育科目の関連について検討
- ・来年度の取り組み
 - 来年度(2017年度)の予定・課題

以上の報告について各委員間で意見交換された。(以下抜粋)

- ・学校側だけでなく協力企業側の視点が必要。養成校で保育士資格出た学生が、自分の園(企業)に就職してくれる担保がないと企業側が協力してくれないのではないかと。
- ・今回の企業とのやりとりを通して企業側も本気で保育士を育てる気持ちがあるのがわかった。
- ・ある学校はビジネスマナーや現場ですぐ役立つ内容の研修を徹底的に行い、カリキュラムも過酷で「ついてこられない学生は辞めて結構です」というスタンスでやっているが、卒業後は即、現場に入り込めている。学校側で現場実践力を体験させたいというのであれば、企業は喜んで協力する。
- ・とにかく現場に即対応できるようにするために現場とどう協力していくか。どういう育て方をすればよいか、現場と一緒に考えないといけない。
- ・母子生活支援施設などは保育所よりもっと人手不足が深刻なので、保育所だけでなく施設とも学生を繋げる必要がある。
- ・連携には人手・経費が必要で、小さな施設では手が回らない。せつかくの良い取り組み

にも関わらずもったいない。但しこの連携は前向きにかかわるべき取り組みであると思う。

- ・実習期間だけで学生を評価するのは難しく、作業的に評価してしまうことがあるので長期的な連携は賛成。
- ・求職者は通勤しやすい出身地に就職しやすい傾向がある。その地域制、地域の良さも学生に伝えたくて実習させると実習園に就職してくれる、そんなシステムを今回の取り組みで作ればと思う。
- ・実習で自信をなくす学生がいるので実習の前に保育現場が楽しいという経験ができるのがよい。保育士の言動等が子どもの育ちへつながる感動が大切なので現場に出ることはよいことだと思う。
- ・働きによって報酬は出すが、園側にはそれに見合う業務の評価基準がある。
- ・低い評価を受けた学生のモチベーションを下げない工夫が必要。
- ・こうすれば評価されるというように、評価は先が見えるものにしなければならない。
- ・評価される結果含め、今回実践してみてアンケートをとり実態が見えてくればよい。
- ・子どものためを思うならチームワークも大事であることを教えてほしい。
- ・人間関係で辞める若い人は確かに多い。
- ・「子どもが好き」というタネがあるなら育てていかないといけない。
- ・人間力は現場で身に付くが、その大事な人間力をつくるにはどうすればよいか。
- ・実習が上手くいかなかった学生のケアが必要。
- ・グループワークも必要。
- ・学校と企業（園、施設）がウィンウィンになる関係が必要だが、具体的にどうすればよいか次年度のテーマとしたい。

以上、終了時間となり、次回は企業（園）と学生の相互理解（人間性が触れ合う場）について意見交換し、今回のテーマをより深めることとし散会となった。